

我が子が生き生きと育つ 家族のコミュニケーション

2018年2月8日 上北沢小学校

花まる学習会 真島 健一郎

k-majima@hanamarugroup.jp

認定子育てハッピーアドバイザー

我が子には楽しく充実した人生を送って欲しいと、親ならば誰しもが強く願っています。私は、生き生きとしている大人は、「よし、やってやろう!」という気概を持ち続けていると感じています。この気概の原点、実は家族のコミュニケーションにあるのです。

1. 「よし、やってやろう!」が人生を楽しくする

(1) プロセスを楽しめる素質

- ①先 (=結果) の見えない不安
- ②情報にやる気を奪われている「省エネ世代」
- ③プロセスを具体的な言葉にして認める

(2) 「それ私にやらせてください」と言える大人

- ①根拠の無い後押し
- ②大げさすぎるほどのお祝い
- ③苦手という感覚は、周りとの比較が前提にある 比較対象は前の自分

(3) 失敗、クレームを宝物に出来る社会人

- ①失敗=贈り物
- ②逆、転ばぬ先の杖作戦
- ③親が悔しがらる

2. 勉強面 親の心構え

- (1) 読解力ピラミッド
- (2) 文末力
- (3) 苦手意識=自己防衛
- (4) ストレスがたまっていることを表明する
- (5) 背伸びを尊重
- (6) 本人の意思を尊重=責任感

3. 事例から幼児期、小学生時代を考える

(1) 高3男子 自学出来ない

●束縛、親の敷いたレール

●好きな科目がない

○幼児期、小学生時代、必要だった家族のコミュニケーション

①未来を語り合う

②親から子への、「今」が幸せかの確認

③親の「仕事観」を伝える

(2) 中1男子 高3男子 大3女子 きょうだいに対しての見事なバランス

○常に長男を尊重

○我が子の愚痴は塾の先生へ

○幼児期、小学生時代、良かった家族のコミュニケーション

①使わなかった、NGワード1

②使わなかった、NGワード2

③「あなたはあなたの時代を生きている」というメッセージ

4. まとめ

(1) 親ばか

(2) 親も自分をほめる

(3) 家族の基準

(4) 待つ

(5) 家族イベント

(6) 我が子がいるだけで幸せ

5. 参考文献

『人工知能時代を生き抜く子どもの育て方』 神野元基 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2017年

『「賢い子」に育てる究極のコツ』 瀧靖之 文響社 2016年

『一流の育て方』 ミセス・パンプキン ダイヤモンド社 2016年

『「学力」の経済学』 中室牧子 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2015年

『幼児教育の経済学』 ジェームズ・J・ヘックマン 東洋経済新報社 2015年

『マシュマロ・テスト』 ウォルター・ミシェル 早川書房 2015年

『子どものまま中年化する若者たち』 鍋田恭孝 幻冬舎 2015年

『ひといちばい敏感な子』 エレイン・N・アーン 1万年堂出版 2015年

『子育てハッピーアドバイス』シリーズ 明橋大二 1万年堂出版 2005年～現在